

令和3年度

和歌山県立近代美術館の運営状況に対する評価書

和歌山県立近代美術館

和歌山県立近代美術館評価様式（令和3年度事業評価用）

1	展覧会（特別展）	3
	展覧会（企画展）	5
	展覧会（常設展）	9
	展覧会（新政策）	13
2	調査・研究	14
3	作品・資料の収集	15
4	作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等	16
5	教育普及	17
6	国内外との連携	20
7	安全と快適性	21
8	入場者数と財源の確保	23

和歌山県立近代美術館評価様式（令和3年度事業評価用）

<p>美術館長による評価</p>	<p>今年度も、昨年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言も発出される中、美術館活動全体が厳しい状況下にあったが、引き続き徹底した感染症対策を講じて、事故なく事業を展開できたことは、職員一同の危機管理に対する対応もさることながら、将来への問題解決に向けての一步を着実に踏み出せたと思う。</p> <p>そして、一昨年度の開館50年記念展をも継続するように、秋には「和歌山県誕生150年」そして和歌山県ではじめての開催となる国民文化祭「紀の国わかやま文化祭2021」の特別連携事業として「和歌山の近現代美術の精華」展を2部構成で開催し、絵画、彫刻、版画、写真、デザイン、建築を含めた総合的展示によって、和歌山県ゆかりの美術を広く紹介する好機を得たことは高く評価できる。</p> <p>さらに、全国高等学校総合文化祭「紀の国わかやま総文2021」の美術・工芸部門の開催、新政策事業の一環である「おでかけ美術館」を橋本市教育文化会館でも継続して開催するなど、県立美術館として着実にその成果を示すことができた。</p> <p>現在直面しているパンデミックの状況下で、いかに展覧会や各種事業活動を展開するかという問題に対して、わが国の美術館界でも展覧会の開催形態のあり方が問われる中、当館では、開館50年の間に蓄積された公立美術館でも有数のコレクションの質と点数によって、さらなる活動が期待されている。</p> <p>そのためにも、昨年度も指摘したように、現在の黒川紀章設計による新館開館から28年を経て、施設面の老朽化、収蔵庫や一時保管庫の狭隘の状況の改善、南海トラフ地震への対応など、施設面での整備も急がれる。</p>
<p>評価部会による評価</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の流行に歯止めがかからず、これまで当たり前であった事業に取り組めない厳しい状況が続く中であっても、時宜にかなった展覧会を企画するなど、運営に努力されていることは評価できる。現在の社会状況に呼応するような企画も工夫されており、柔軟な運営の努力がなされている。依然として多くの入館者を期待できる状況にはなかったと言えるが、その中で国民文化祭と連動して大規模な展覧会を開催し、県ゆかりの近現代美術を紹介する充実した展覧会を開催したことは、これまでの活動の蓄積に基づくものと言える。充実したコレクションを最大限に活かすという従来からの方向に即しながら、将来のビジョンを形成する上でも貴重な経験になったものと思われる。</p> <p>知事選挙を控えて仁坂知事が退任を発表されたが、新知事の元でもこれまでの実績を守りながら事業に取り組めるよう体制を固めて行かれることを要望する。</p>

1 展覧会（特別展）

美術館長による所見	本展覧会は、和歌山ゆかりの近現代美術を、絵画、彫刻、版画、写真、デザインさらには建築にいたるまで、総合的に紹介するはじめての画期的な企画であり、さらに県立近代美術館としての50年の活動の成果を広く紹介する意味でも高く評価できる。
評価部会による所見	これまでの調査、研究を踏まえながらさらに名品や重要な資料などを紹介した内容で、大変充実した展覧会であった。コロナ禍下にあっても十分な来場者を得たものと思われるが、出品作品の内容からすれば物足りなくもあり、この美術館における集客の一つの限界が見えたとも言えるだろう。職員がどれだけ努力して良い内容の展示を行っても、集客には限界があるということだ。第2部は島村逢紅の業績を日本の写真史に位置づける重要な仕事であった。更に調査、研究を進め、できれば作品収集にも結びつけてもらいたい。

①特別展-1

和歌山の近現代美術の精華

第1部 観山、龍子から黒川紀章まで

第2部 島村逢紅と日本の近代写真

会 期：令和3（2021）年10月23日（土）—12月19日（日）58日間・うち休館8日

会 場：展示室A・B（1階）、C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和3年度目標	和歌山ゆかりの近代・現代美術の重要作を、日本画、洋画、彫刻、版画、そして写真やデザインといった新しい分野にも注目しながら紹介。和歌山で育まれた文化の魅力を紹介する。
自己評価・課題・改善案	<p>第1部では、当館がこれまで調査研究をつみ重ねてきた作家について、その成果に基づきつつ、普段紹介することができない重要な作品を、東京国立近代美術館や宮内庁三の丸尚蔵館などから借用し、所蔵品とともに紹介することで、各作家の活動を改めて地元で印象づける機会とすることができた。またこれまで紹介する機会を設けられずにいたデザイナーの山名文夫や、当館の建築設計を手がけた黒川紀章についても展示に加えることで、和歌山に関わる多様な美術文化を発信することができた。各作家について、改めて展示の機会を設け、さらなる調査研究や新たな作品収集の機会へとつなげていくことが、今後の課題となる。</p> <p>第2部では、ご遺族の元から発見された作品や資料を中心に整理を進め、島村逢紅の写真を初めて体系的に紹介し、近代日本の写真史のなかに島村の仕事位置付けることができた。「木国写真会」についてはさらなる会員の作品を発掘することで、近代の和歌山における写真文化の状況をあきらかにしていきたい。また残された逢紅作品や資料についての調査研究を継続し、次回の展覧会開催につなげたい。</p>

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和3年度目標	図録、ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	第1部図録(B5判変形296頁)、第2部図録(B5判変形216頁)、ポスター(B2判)、チラシ(A4判)、プレスリリース(A4判6頁)、第1部出品目録(A4判8頁)、第2部出品目録(A4判8頁)、360°ウォークスルービュープログラムを制作した。

C. 関連事業

令和3年度目標	講演会、フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	講演会2回、スライドレクチャー7回、こども美術館部2回、ワークショップ2回を開催した。

D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和3年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	感染症対策を行いながら開館し、事故なく作品の返却までを行った。

E. 入館者数

令和3年度目標	10,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	12,565人であった。

1 展覧会（企画展）

美術館長による所見	<p>「疎密考」は、まさにパンデミックにある状況下で、美術作品の「余白あるいは集積、空間における人やものとの距離」といったテーマに切り込むタイムリーな企画であった。「もうひとつの世界」と「コミュニケーションの部屋」の展覧会も、「疎密考」に続いて、私たちの心やコミュニケーションという、現在もっとも関心が高いテーマをコレクションによって提示するとともに、あらためて当館に収蔵された作品について、新たな意味づけを付与した展覧会となった。</p> <p>引き続き、コレクションによって新たな切り口を見出し、コレクションと連動した展覧会活動を行っていきたい。</p>
評価部会による所見	<p>短い準備期間ながら時宜にかなった充実した内容の展覧会が開催されている。限られた予算の中で、工夫しながら企画していることが評価できる。せっかく良い内容の展示を行っているのだから、出品目録だけでなく印刷物で内容を残し、伝えていくのが引き続いての課題である。いくつかの展覧会ではヴァーチャルな 3D 展示記録をインターネット上に公開しており、新しい取り組みとして評価できるが、文化庁からの助成によるとのことであり、今後の財政的な裏付けが課題である。</p>

②企画展-1

疎密考

会 期：令和 3（2021）年 4 月 24 日（土）—5 月 30 日（日）32 日間・うち休館 5 日

会 場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和 3 年度目標	<p>人のいる風景やだれもない風景に表れた疎密、余白あるいは集積といった形で表現された疎密などを作品を通じて紹介し、空間における人やものとの距離とそれらの関係について再考する。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>第 1 章「ひととの距離にみる疎密」では、人のいる風景やだれもない風景に表れた疎密から、人やものとの距離感や関係性が見て取れる作品を並べ、第 2 章「美術表現にみる疎密」では、余白あるいは集積といった形で表現された疎密を別々の部屋で対比的に紹介。最後の 3 章「疎密を通じ間合いについて考える」では、時間的あるいは心理的な「間合い」について一考を促す空間とした。</p> <p>会期が新型コロナウイルス感染拡大の第 4 波と重なり、来館しにくい状況が続いていたが、時宜にかなった企画ということで取材依頼も多く美術館活動に注目してもらう良い機会になった。延期して開催したヴァイオリンのコンサートも、コロナ禍に鑑みて屋外で実施し、展示内容に合わせた選曲で、多くの参加者から好評を得た。展示室空間は「文化庁 ARTS for the future!事業」として、3D 撮影の上、当館ホームページ上で公開している。</p>

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和 3 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター（B2 判）、チラシ（A4 判）、プレスリリース（A4 判 3 頁）、出品目録（A4 判 6 頁）、360°ウォークスルービュープログラムを制作した。

C. 関連事業

令和 3 年度目標	コンサート、フロアレクチャー、こども美術館部等を実施する。
自己評価・課題・改善案	友の会の協力によるコンサート 1 回、フロアレクチャー 2 回、こども美術館部 2 回を開催した。

D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和3年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	感染症対策を行いながら開館し、事故なく会期を終了した。

E. 入館者数

令和3年度目標	3,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,983人であった。

②企画展-2

もうひとつの世界

会期：令和3（2021）年6月8日（火）—7月18日（日）42日間・うち休館6日

会場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和3年度目標	美術作品は、ここではないもうひとつの世界にしばしば私たちを誘う。心のなか、物語のなか、失われたもの、この先にあるものなど、言葉では言い表すことができない世界を表した作品から、改めていまこの世界を見つめ直す。
自己評価・課題・改善案	多くの人が世界のあり方についてさまざまに考えを巡らせるなか、改めていまいる世界や自分自身について美術表現を通して問いかけることで、その価値や意味を考える機会とできるよう展示構成を考えた。具体的には、「世界のみかた わたしたちはいまどこにいる？」「あちらとこちらをつなぐもの これはなんでしょう？」「わたしがいる世界 わたしはどうしてここにいる？」という3つの章で構成し、基本的に全ての出品作品に解説文をつけ、解釈の手がかりを設けることで、一見分かりにくいと考えられることも多い作品に対しても、その理解を深め、それが展覧会全体の鑑賞の質を向上させることにもつながったと考えられる。パネルや作品解説などは、インターネット上に残していくことを考えたい。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和3年度目標	ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター（B2判）、チラシ（A4判）、プレスリリース（A4判3頁）、出品目録（A4判6頁）を制作した。

C. 関連事業

令和3年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部等を実施する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャー2回、こども美術館部2回を開催した。

D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和3年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	感染症対策を行いながら開館し、事故なく会期を終了した。

E. 入館者数

令和3年度目標	3,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,365人であった。

②企画展-3

コミュニケーションの部屋

会 期：令和3（2021）年8月15日（日）—10月10日（日）57日間・うち休館8日

会 場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和3年度目標	展覧会や展示室は、美術作品や自分自身との、また見る者同士のコミュニケーションも生み出す場所である。社会における情報伝達や共同作業などの観点を、多様なジャンルの作品を手がかりに探る。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染拡大により多くの美術館は臨時休館を経験し、あらためて展覧会や展示の意味を考えることとなった。その視点を共有する機会として、本企画では企画者である「わたし」から鑑賞者としての「あなた」への、また作品や他者とのコミュニケーションのかたちを、5つの観点から提示した。なかでもアーティストと障害のある人がペアになって創作活動を行う「アートリンク・プロジェクト」の例から前川紘士氏と那須大輔氏の活動を紹介し、前川氏にはアーティストトークやワークショップの講師も務めていただくことで、美術における多様なコミュニケーションの可能性を広く知ってもらう機会を設けられた。その成果は、YouTube や報告書で公開している。また来館者とお話しをしながら展示を楽しむ「だれでも美術館部」の1回に手話通訳をつけ、普段情報にアクセスしにくい人たちへの参加機会を準備することができた。こうした多様なアクセシビリティを特別な機会とするのではなく、継続的に確保することが今後の課題である。他の企画展と同様、図録の制作は叶わなかったが、展示室空間は「文化庁 ARTS for the future!事業」として、3D 撮影の上、当館ホームページ上で公開している。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和3年度目標	ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター（B2判）、チラシ（A4判）、プレスリリース（A4判3頁）、出品目録（A4判8頁）、360°ウォークスルービュープログラムを制作した。

C. 関連事業

令和3年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部等を実施する。
自己評価・課題・改善案	こども美術館部2回、だれでも美術館部1回、アーティストトークと作家によるワークショップを各1回開催した他、2日に渡って開催されたWAKAYAMA COFFEE MARKETを関連事業とした。

D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和3年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	感染症対策を行いながら開館し、事故なく会期を終了した。

E. 入館者数

令和3年度目標	3,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,125人であった。

②企画展-4

20世紀からおみやげ。近現代美術のたのしみ

会 期：令和4（2022）年2月5日（土）—3月27日（日）51日間・うち休館7日

会 場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和3年度目標	美術作品は、同時代への提案であり、未来への「おみやげ」でもある。20世紀の美術を通して、私たちのいまを考える。
自己評価・課題・改善案	本展では、作品に反映された100年の歴史、新しい素材や新しい技術が表現にもたらした変化などのなかから、「11のおみやげ」としてコーナーごとに視点を提案した。また多彩な表情を持つようになった近現代美術の魅力に来館者自身が鑑賞を通して気づけるよう、作品ごとに小さな解説を付した。 感染症の拡大のため、対話型のフロアレクチャーは控える必要があり、来館者と直接に話すことで、来館者自身の発見を喜んで頂ける機会がなかったこと、予定していた解説会などが中止となったことは残念だった。会期中には、思いのほかの来館者があり、作品そのもののリアルな存在感にふれる場所が求められていることにあらためて気づかされた。印刷物のメインイメージに三島喜美代《パッケージ》を使ったが、ことのほか、来館者から喜ばれた。ポスターなど、従来からある印刷物の力はいまでも大きいことを知りえたことも収穫であった。

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和3年度目標	ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター（B2判）、チラシ（A4判）、プレスリリース（A4判3頁）、出品目録（A4判4頁）を制作した。

C. 関連事業

令和3年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	スライドレクチャーを1回、こども美術館部を2回開催した。

D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和3年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	感染症対策を行いながら開館し、事故なく会期を終了した。

E. 入館者数

令和3年度目標	3,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,559人であった。

1 展覧会（常設展）

美術館長による所見	<p>冒頭の「評価」にも記したが、パンデミック下であって、展覧会活動の見直しがさげばれてきている。その意味でも、当館では、コレクションによる「常設展」を重視し、展覧会場も1階に設けて、来館者に、まずコレクション展示への関心が高まるよう啓蒙している。また、その内容についても多様な視点を提示し、たとえば「ステイホーム」といったタイムリーなテーマも取り上げ、来館者への関心を高める努力も行なっている。</p> <p>また、今回11回目を数える恒例の「なつやすみの美術館」では、過去2回、若手作家を取り上げてきたが、今回は、わが国の現代美術を代表する和歌山県出身の美術家・野田裕示氏の全面的な協力を得て開催できたのも意義深い。会場写真を中心に記録集も作成し、展覧会を機に大作を収蔵することができ、コレクションの充実の成果も得ることができた。</p> <p>さらに、「コレクション展 2022-冬春」の「特集 若き日の野長瀬晩花」も、会期中にNHK 日曜美術館でも紹介され、アンケートにはこの番組を見て来館したという嬉しい出来事もあった。</p>
評価部会による所見	<p>企画展においてもコレクションを最大限に活用している一方、常設展においても小企画展と呼べる内容の展示が充実していることは大きな長所である。野田裕示や野長瀬晩花といった、注目すべき芸術家の業績を特集して紹介することは、美術館の重要な使命を果たす活動として評価したい。野長瀬晩花の特集については、代表作がパネルでの紹介にとどまったことは残念であったが、同時期に開催されていたドイツでの展覧会への出品のためとのことであり、コレクションを紹介する活動としてはいずれも重要なものだった。ゆかりの作家については代表作を欠いても紹介が成り立つ充実した収蔵内容となっており、興味深い内容として評価されるべきである。</p>

③常設展-1

コレクション展 2021- 春 特集「うちのなかから」

会 期：令和3（2021）年4月24日（土）—7月4日（日）72日間・うち休館10日

会 場：展示室A・B（1階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和3年度目標	<p>当館の代表的な所蔵品を「日本近現代美術と和歌山」と題して紹介するとともに、去る3月23日に逝去された稗田一穂氏を追悼するコーナーを設ける。特集展示では「ステイホーム」が呼びかけられる中で、作家が日常へのまなざしを作品に反映させた表現を見直す。</p>
自己評価・課題・改善案	<p>特集展示について、意外なほど反響があった。さまざまな感想をうかがうなか、ステイホームが求められるようになって一年が経ち、不自由ななかで、静かにうちにいるということも自分自身の内側、あるいは人間そのものを顧みる機会であり、創造的な行為ができる機会だと知らせてくれる働きもアートにはある、というところに共感するとしばしばお聞きした。静物画や家族の肖像など日常の光景や、屋根や壁、部屋、ドア、階段など、人間を守る「家」を思わせる表現などを集め、どちらかというと華やかな展示にはしなかったが、それでも「いま」求められることに寄り添っていれば不思議と美術作品と来館者との対話の場となれると気づく機会となった。</p>

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和3年度目標	出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	プレスリリース(A4判2頁)、出品目録(A4判4頁)を制作した。

C. 関連事業

令和3年度目標	フロアレクチャー等を開催する。
自己評価・課題・改善案	開催しなかった。

D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和3年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	感染症対策を行いながら開館し、事故なく会期を終了した。

E. 入館者数

令和3年度目標	3,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,528人であった。

③常設展-2

コレクション展 2021-夏 なつやすみの美術館 11 野田裕示「集まる庭」

会 期：7月17日（土）—9月26日（日）74日間・うち休館10日

会 場：展示室A・B（1階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和3年度目標	コレクション展に併設する形で「なつやすみの美術館」展を開催する。だれもが気軽に美術館を訪れ、美術の楽しみ方を体験できる展覧会を目標とする。今回は御坊市出身の画家、野田裕示さんの作品を、野田さんが出会った作家の作品とともに紹介し、作品の見方を提案する。またコレクション展では和歌山ゆかりの作家たちの作品にマーク・ロスから現代の美術を交えて近代以降の美術の流れを紹介する。
自己評価・課題・改善案	南画廊での初個展から30年以上にわたって作家として活躍してきた野田裕示の歩みを収蔵作品と併置し、回顧展としての性格を持ちながら時系列に作品を辿らない配置を行い、作家の一貫した問題意識が異なる様相で現れる様子を提示した。「紀の国わかやま総文 2021」において野田氏が講評を行ったことで、来場した高校生に作品によっても強い印象を残せたものと思われる。展示室空間は「文化庁 ARTS for the future!事業」として、3D撮影の上、当館ホームページ上で公開している。また、コレクション展では近現代の作品を凝縮して展示するとともに、和歌山県立和歌山ろう学校と和歌山県立粉河高校の生徒による鑑賞の取り組みを紹介した。

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和3年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター（B2判）、チラシ（A4判）、プレスリリース（A4判4頁）、出品目録（「集まる庭」A4判12頁、コレクション展A4判4頁）、ワークシート（A4判4頁）、展覧会記録集（A4判48頁）、360°ウォークスルービュープログラムを制作した。

C. 関連事業

令和3年度目標	フロアレクチャー等を実施する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを3回、こども美術館部を2回開催した。

D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和3年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	感染症対策を行いながら開館し、事故なく作品の返却までを行った。

E. 入館者数

令和3年度目標	10,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	8,450人であった

③常設展-3

コレクション名品選

会 期：令和4（2022）年1月8日（土）—1月23日（日）16日間・うち休館2日

会 場：展示室B（1階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和3年度目標	県展、ジュニア県展の会期に合わせて開催するため通常より1/3の規模となり、コレクションからよりすぐった作品を展示する。
自己評価・課題・改善案	昨年度からレイアウトを工夫して入場しやすい入口の構成としたことにより、従来は県展来場者のうち二割程度の入場であったが、今年度は三割以上の入場があり、より多くの来場者に鑑賞してもらうことができた。展示点数が限られるため、出品目録に作品画像を添付して記録性を高めた。ジュニア県展の会期にも当たるため、和歌山県立和歌山ろう学校の生徒による作品鑑賞の取り組みの映像をリーディング・コーナーにおいて紹介した。感染症の状況次第だが、会期中の鑑賞教育の充実に取り組みたい。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

令和3年度目標	出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	プレスリリース(A4判2頁)、出品目録(A4判4頁)を制作した。

C. 関連事業

令和3年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを予定したが、新型コロナウイルス感染症の拡大が沈静化しないため中止とした。

D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和3年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	感染症対策を行いながら開館し、事故なく会期を終了した。

E. 入館者数

令和3年度目標	1,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,163人であった。

③常設展-4

コレクション展 2022- 冬春 特集「若き日の野長瀬晩花」

会 期：令和4（2022）年2月8日（火）—4月17日（日）69日間・うち休館9日

会 場：展示室A・B（1階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和3年度目標	所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示する。特集展示では、所蔵品を中心に、和歌山県田辺市出身の日本画家・野長瀬晩花の作品や資料を展示するとともに、師の谷口香嶠や同世代の仲間たちなど、晩花をとりまく人々についても紹介する。
自己評価・課題・改善案	常設エリアでは、海外の現代美術に加え、和歌山ゆかりの作家を中心に、明治から昭和戦後期までの近現代美術を紹介。特集展示では、和歌山県田辺市出身の日本画家・野長瀬晩花の習画期から青年期を中心に紹介し、所蔵作品に加えて、晩花の旧蔵資料から未公開の画稿類等を多数展示した。習画期の資料を多めに出品し、従来の晩花像とは異なる初期の堅実な様子と高い画技を見てもらえた。また、新収蔵となった晩花の《都をどり》が注目を集め、NHKの日曜美術館アートシーンでも本展が紹介された。当初は師の谷口香嶠等の作品の館外からの借用も検討していたが実現せず、晩花の旧蔵資料の全容を公開する記録物なども未だ発行できていない。今後は助成金等を申請して展覧会内容の充実と研究成果の活字化に努めたい。

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和3年度目標	出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	プレスリリース(A4判2頁)、出品目録(A4判8頁)を制作した。

C. 関連事業

令和3年度目標	フロアレクチャー、こども美術館部等を開催する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを2回開催した。

D. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和3年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	感染症対策を行いながら開館し、事故なく会期を終了した。

E. 入館者数

令和3年度目標	3,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,631人であった。

④新政策-1

芸術に親しもう！ おでかけ美術館 第3回 紀北地方 野田裕示展

会 期：令和3（2021）年10月1日（金）—10月24日（日）

会 場：教育文化会館（橋本市東家1丁目6-27）

主 催：和歌山県立近代美術館

A. 展覧会の内容・出品作品・構成・工夫点等

令和3年度目標	近代美術館への来館が困難な地域で、活躍中の和歌山ゆかりの美術家の作品を紹介する。今回は紀北地方において、画家として活動を続けている野田裕示氏の作品を紹介する。
自己評価・課題・改善案	紀北地方で展示に適した会場を見出すことができず、小規模ではあったが、35年を超える野田裕示の制作の歩みを凝縮して紹介し、現代の美術について端的に提示することができた。昨年が続いて感染症流行のため学校から団体での来場を促すことができず、目標とした来館者に観覧いただくことはできなかったが、展示を通して美術への関心を高めることはできた。

B. パンフレット・出品目録等の制作

令和3年度目標	ポスター、チラシ、出品目録、ワークシート等を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター（B3判両面）、出品目録（A4判2頁）、ワークシート（A4判4頁）を制作した。

C. 関連事業

令和3年度目標	ワークショップ、レクチャー等を開催する。
自己評価・課題・改善案	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施を控えた。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

令和3年度目標	学校から会場までのバスを運行し地域の中学生を中心に来館を促す。
自己評価・課題・改善案	近隣の学校からの来館等を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できなかった。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

令和3年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	感染症対策を行いながら開館し、事故なく作品の返却までを行った。

F. 入館者数

令和3年度目標	1,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	391人であった。

2 調査・研究

美術館長による所見	今年度は、2部構成で開催した「和歌山の近現代美術の精華」展のカタログに、学芸員全員が、それぞれの専門領域に即した論考を執筆するほか、奥村一郎教育普及課長による写真家・島村逢紅のはじめての紹介とその調査研究の成果を発表し、藤本真名美学芸員も下村観山の兄・下村清時を紹介した。また井上芳子学芸課長による建築・黒川紀章の未公開の当館関連の設計図面の発掘など、将来にもさらなる展開が期待できる調査・研究も特筆される。
評価部会による所見	それぞれの学芸員が専門分野について研究を続け、展覧会において成果を発表し、さらに研究につなげるという良い循環ができています。「和歌山の近現代美術の精華」展図録の充実ぶりが、そのことを端的に示している。その他の企画展における取り組みを出版物として残すことができればなお良いが、予算の獲得も含めて今後の課題である。また、それぞれの専門分野について、各学芸員が集中して研究できる時間を交互にでも取れるような体制を作ることが課題である。

①調査・研究

A. 美術に関する調査・研究の展覧会・教育普及活動等への成果の反映

令和3年度目標	美術に関する調査・研究を行い、展覧会や教育普及活動に成果を反映させる。
自己評価・課題・改善案	学芸員各自がそれぞれの主題に関する調査・研究を行い、展覧会などの成果につなげた。

B. 外部研究機関・団体等と共同した調査・研究

令和3年度目標	外部研究機関・団体等と共同した調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	展覧会に関する作品資料の貸借に伴い情報の交換を行った。

C. 研究成果の公表

令和3年度目標	研究成果を外部に向けて公表する。
自己評価・課題・改善案	講演や執筆など館外において調査・研究の普及活動を行った。

3 作品・資料の収集

美術館長による所見	<p>今年度は、9 作家計 17 点の作品を購入し、13 作家 188 点の作品・資料に加え、継続して田中恒子コレクションとして 13 点の計 201 点の受贈があり、さらなるコレクションの充実がはかれたと思う。とりわけ版画や版画誌が 15 点加わり、中にはわが国の美術館でははじめてのヴァルター・クレムの版画やエミール・オルリクなどは、学芸員の調査の成果としても評価できる。</p> <p>寄贈作品では、ご遺族から譲り受けることができた稗田一穂の日本画 15 点、日和崎尊夫の版画 123 点、さらに昨年度から継続した奈良原一高の写真作品、田中恒子コレクション 13 点など、当館のコレクションの性格を鮮明にする作品も加えられた。</p>
評価部会による所見	<p>購入予算は潤沢とはとても言えない中で、充実した作品の収集を行っている。特に旧館時代から収集を続けてきた稗田一穂作品の充実や、奈良原一高、日和崎尊夫のまとまった寄贈はありがたいことである。田中恒子コレクションの継続した寄贈も含めて、当館の活動全体が評価されていることが寄贈に結びついているものと評価できる。作家の制作を振り返る上で、補って収集できれば一層コレクションの充実を図れる作品もあるので、特に多くの作品を収集できた作家についてはそれで終わりせず、欠けている時期の作品の補強などを引き続き図っていただきたい。またギャラリー・グラフィカの旧蔵資料には貴重書が含まれており、日本の美術館の作品収集の基礎資料であったものでもあって、散逸させずに収蔵できたことは高く評価できる。収蔵スペースの確保も課題だが、収蔵作品の増加は充実した活動の証でもあり、スペースの制約を理由に収蔵を控えるようなことがあれば本末転倒だ。収蔵庫の増築も視野に入れて取り組んでほしい。</p>

①作品・資料の収集

A. 美術作品収集方針に沿った作品・資料の収集（コンプライアンス、収集手続き）

令和 3 年度目標	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行う。
自己評価・課題・改善案	令和 4(2022)年 3 月 8 日に令和 3 年度和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会を開催し、購入、寄贈作品の受け入れについて諮ったうえで、適正な手続きを経て作品を収蔵した。

B. 購入、受贈に係る作品・資料の点数、内容

令和 3 年度目標	購入・受贈において作品・資料の点数、内容が適切であるようにする。
自己評価・課題・改善案	購入作品 17 点、寄贈作品 16 件 201 点の収蔵を行った。

②図書資料の収集・公開

A. 図書資料の収集、研究や閲覧への活用

令和 3 年度目標	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用する。
自己評価・課題・改善案	逐次刊行物 10 タイトル 51 冊、単行図書 6 冊に加えて閉廊したギャラリーグラフィカ旧蔵の図書 109 冊を収集し、研究、閲覧に活用している。

4 作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等

美術館長による所見	<p>将来に貴重なコレクションを引き継いでいくために、常に作品の状態を調査し、保存修理につとめることは、美術館の重要な柱のひとつである。今年も継続して、東京などから保存修復の専門家を招聘し、アドバイスによる実施修理によって学芸員の意識の向上につとめるとともに、その技術水準についても、わが国の美術館の中で上位に位置すると思われる。</p> <p>空調機器設備の更新によって環境の改善は見られるが、その管理については、来年度以降の新政策事業としてデータベースの構築と公開に取り組む。</p>
評価部会による所見	<p>懸案であった石垣栄太郎の素描作品の修復に着手できたことは喜ばしい。数年に渡って修復経費が必要となるが、なんとかやりくりして保存していけるよう取り組んでほしい。収蔵作品が増え、作品も古くなっていくに従って修復の必要性も増していきだろう。収蔵資料のカタログも必要だが、書籍での出版よりもデータベースの整備、公開に取り組む方が良いものと考え。次年度から取り組めるとのことなので、しっかりと進めてもらいたい。</p>

①作品・資料の状態調査

令和3年度目標	作品・資料の状態調査を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	展示、貸出の機会にあわせて継続的に所蔵品の状態を調査し、保存上の対策を必要とする作品については、マウントや額の改良・交換を中心に処置を進めた。

②作品・資料の保存環境

令和3年度目標	作品・資料にとって適切な保存環境を保ち、整備する。
自己評価・課題・改善案	これまでの数年間に蓄積したデータをもとに、季節、天候による環境の変化から起こる虫菌害を抑えることができた。計画的な清掃にあわせ、毎月のトラップによるモニタリングの結果によって対策を加え、良好な保存環境を実現しつつある。空調機器の更新に伴い、環境は改善されている。

③作品・資料の保存修復

令和3年度目標	作品・資料に対し適切な保存修復を行う。
自己評価・課題・改善案	館外の保存修復専門家による状態調査を実施・記録し、修復が必要と判断された作品のうち、優先順位の高いものについて処置を実施した。油彩作品1点、版画作品8点、素描1点の修復を行った。

④作品・資料の管理

作品・資料の管理と公開（台帳・データベース）

令和3年度目標	作品・資料の管理(台帳・データベース)を適切に行い、内容を公開する。
自己評価・課題・改善案	展覧会出品目録、新収蔵作品目録を年報に掲載した。インターネットを通じて公開する所蔵作品情報を充実させることが課題であるが、来年度以降新政策としてデータベースの構築と公開に取り組む。

5 教育普及

美術館長による所見	当館は全国の美術館の中でも、教育普及に対して積極的な取り組みを行ってきた。そして昨年度に引き続いて、コロナ禍にあって、展示室などで直接来館者と接する解説会やワークショップなどの開催を可能な限り行ってきた。来館者目標の設定については、なお厳しい状況下にあるが、今後はオンラインによる活動の開催や、パンデミック下における対面での事業の展開などについて、さらに再考しながら行えるよう努力していきたい。
評価部会による所見	コロナ禍のため実施しにくい事業も多い中で、さまざまな試みを行っていることは評価される。インターネットを通じた取り組みの拡充や、キャンパスメンバーシップなど、今後検討していく課題だろう。友の会活動への取り組みも困難な中で続けられているが、多くの事業を実施するには職員数が少なすぎるのではないかと。職員数に合わせて事業を絞ることも考える必要がある。

①教育普及活動

A. 学校教育団体からの来館を受入れる

令和3年度目標	120件程度を目標としているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため来館目標を設定できない状況にある。
自己評価・課題・改善案	86件の団体を受入れた。

B. 鑑賞教材等の制作等の工夫

令和3年度目標	来館に際して教材開発などの工夫を行う。
自己評価・課題・改善案	「なつやすみの美術館」展を中心に教員らと共同でワークシートを開発するなどの取り組みを行った。

C. 講演会・解説会・体験的プログラム等の実施

令和3年度目標	25回を目標としているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため受入回数を目標として設定できない状況にある。
自己評価・課題・改善案	展覧会に合わせてレクチャーなどを37回実施した。

②県民や地域との連携

A. ボランティア活動の受け入れ

令和3年度目標	図書ボランティアの活動を受け入れる。
自己評価・課題・改善案	延べ75人のボランティア活動及び和歌山大学教育学部から3名のボランティアを受け入れた。

B. 友の会等の支援組織の活動への協力

令和3年度目標	友の会、NPO等の芸術文化支援組織の活動に協力する。
自己評価・課題・改善案	和歌山県立近代美術館友の会の活動や、NPO和歌山芸術文化支援協会によるワークショップなどに協力した。

C. 学校・教員等と連携した事業

令和3年度目標	地域の教員等と連携して和歌山美術館教育研究会を組織し、中学校での宿題としての展覧会利用やワークシート制作などに取り組む。和歌山大学教育学部と県教育委員会の連携事業の一環として、和歌山大学教育学部、同附属小学校・中学校と連携して展覧会を課題とした鑑賞、制作、指導法の策定に取り組む。和歌山市美育協会に協力し、鑑賞に関する研修会を開催する。学校教員との協力体制の強化を目的とした研修会を継続して開催する。
自己評価・課題・改善案	中学校教科等別研修会の開催、和歌山美術館教育研究会を9回開催するなど、学校や教員と連携した事業を実施した。

D. 地域と連携した事業

令和3年度目標	地域と連携した事業を行う。第75回和歌山県美術展覧会(県展)、第7回ジュニア県展を文化学術課との連携のもとに実施する。県警音楽隊たそがれコンサートへの事業協力を行う。マジカルミュージックツアー等イベントへの事業協力を行う。
自己評価・課題・改善案	第75回和歌山県美術展覧会(県展)、第7回ジュニア県展を文化学術課との連携のもとに実施した。県警音楽隊たそがれコンサートは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。和歌山ミュージアムパレット、WAKAYAMA COFFEE MARKET 等イベントへの事業協力を行った。関西文化の日に参加し入場料無料の期間を設けた。

E. 観光資源として活用できる方策

令和3年度目標	近隣の集客施設にチラシ等を配布し、利用についてアピールする。
自己評価・課題・改善案	県内各地の教育委員会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ等への利用アピールを行った。オリジナルスタンプによるスタンプラリーを実施し通年のリピーター獲得に取り組んだ。

③人材育成

A. 博物館実習生・インターンシップ・教員研修などの受け入れ

令和3年度目標	博物館実習生・職場体験学習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
自己評価・課題・改善案	館実習は6大学から10名を6日間、教育総務課によるインターンシップの大学生10名を受け入れた。

④機関誌「NEWS」の刊行

令和3年度目標	機関誌を年4回刊行する。
自己評価・課題・改善案	機関紙「NEWS」を年4回、各2,500部を発行した

⑤県民への直接的情報提供

A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)への対応

令和3年度目標	専門的内容に関する問い合わせ・質問(電話・来館等)に対応する。
自己評価・課題・改善案	作者や展覧会等についての問い合わせ8件に対応した。

⑥メディア等への情報発信

A. 掲載件数、メディアへの広報・情報提供活動、番組制作等への協力

令和3年度目標	掲載100件を目標とする。メディアへの広報・情報提供活動を行う。番組制作等に協力する。
自己評価・課題・改善案	新聞・雑誌等に106件の掲載があった他、カタログなどの撮影に協力した。

⑦WEBによる広報

A. ホームページアクセス件数・更新回数・工夫

令和3年度目標	ホームページ年間ページビュー数 15,000 件を目標とする。
自己評価・課題・改善案	ホームページ年間ページビュー数は 345,606 件であった。

B. メールマガジン等の発行回数・工夫

令和3年度目標	10 回を目標とする。メールマガジンに画像を加える等興味を引く工夫をする。
自己評価・課題・改善案	2021 年 4 月 22 日発行の 159 号から 2022 年 3 月 31 に発行の 170 号まで計 12 回発行した。

⑧広報印刷物の制作

A. ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動

令和3年度目標	ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動を行う。
自己評価・課題・改善案	令和3年度展覧会カレンダー 6.1×10.5cm 巻き5ツ折(10頁)を製作(10頁)する他、各展覧会でポスター、チラシ等を制作し配布して展覧会の周知を図った。『和歌山県立近代美術館 50 年史』を制作した。『和歌山県立近代美術館年報 2020(令和元)年版』を刊行した。

6 国内外との連携

美術館長による所見	パンデミック下でありながらも、国内はもちろん、アメリカやドイツの展覧会への所蔵作品の貸し出し依頼に対応し、国内外の他館との連携協力は、継続して積極的に行われている。
評価部会による所見	作品の貸付などを通して内外の美術館と連携し、ドイツのレンバッハ・ハウスの企画に協力したことは高く評価できる。

①他機関への作品・資料の貸出し

令和3年度目標	他機関へ作品・資料を貸出す。
自己評価・課題・改善案	6件の展覧会に対して計20点の作品を貸し出した。

②国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開

令和3年度目標	国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開を行う。展覧会を共同で企画、実施する。
自己評価・課題・改善案	他館と共同での展覧会事業は実施しなかった。

7 安全と快適性

美術館長による所見	<p>昨年度も指摘したように、現在の新館開館から25年が経過し、施設・設備のハード面における保守管理、そして工事は避けられない。文化財保護や来館者の安全の観点からも喫緊の課題ではあるが、本年度も日常のメンテナンスに配慮しながら、長期的な工事計画などの策定の準備への意識を高めた。</p> <p>さらに感染症対策という危機管理面でも、継続して来館者への安全に留意し、いわゆる3密の回避や、マスク着用や検温、アルコール消毒などの対策を徹底して行なった。</p>
評価部会による所見	<p>コロナ対策は業務負担も大きいと思うが、継続して取り組む体制が取れている。安全確保のためのガイドラインなどに沿った取り組みを続けていただきたい。</p>

①施設・設備の維持管理

A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等による安全確保

令和3年度目標	施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等によって安全確保を行う。新型コロナウイルス感染拡大防止に対する必要な方策を取る。
自己評価・課題・改善案	消毒剤を設置して手指消毒を実施し、モニターによる体温の計測を行う他、マスクの着用などの感染対策を職員が行うとともに来館者にも呼びかけ、感染拡大の防止に努めた。

B. 施設・設備の改修や新たな整備

令和3年度目標	経年劣化による各設備老朽化に対し、修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	展示室の照明配電盤及び照明機具の更新工事を行い、照明機具をLEDに交換した。外壁タイルが剥落する危険があり、応急処置とネット設置により対応しているが、全面的な補修工事の必要がある。空調機器をはじめ、老朽化による不都合にはその都度対処を行っている。

C. 日常的なメンテナンス等による施設的美観の保持・衛生管理

令和3年度目標	日常的なメンテナンス等により施設的美観の保持・衛生管理を行う。
自己評価・課題・改善案	日常的なメンテナンスを行い、設備の保持を行った。

D. 長期修繕計画

令和3年度目標	長期修繕計画に基づき、計画的に修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	令和3年度以降のエレベーター設備の更新に向け現状調査を開始。また、空調調和設備のファンコイルユニット及び冷温水ポンプの更新を計画している。

②快適性の向上

A. バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応

令和3年度目標	バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応を取る。
自己評価・課題・改善案	必要に応じて導線上の点字ブロックの修繕、自動ドア等の改修を行った。

B. 利用者に対する接遇

令和3年度目標	利用者に対し適切な接遇を行う。接遇の向上を図る。
自己評価・課題・改善案	職員に対し、利用者への適切な対応をするよう指導した。

C. 快適性向上のための上記以外の取り組み

令和3年度目標	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、改善を図る。
自己評価・課題・改善案	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、恒常的な雨漏りの修繕を行うなどの改善を図った。

③危機管理

A. 危機管理・防災体制

令和3年度目標	危機管理・防災体制について、実地訓練等を行う。同体制について日常的な取り組みを行う。
自己評価・課題・改善案	地震及び火災時の避難訓練を実施した。新型コロナウイルス感染対策のため、開館に向けてアルコール消毒液を館内に設置し、職員用マスクを常備した。

B. 個人情報の保護・データ管理

令和3年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	講演会等の展覧会関連事業開催に伴う参加者及び学芸員育成にかかる実習生の情報管理を適切に行った。

④職員研修

A. 館内外の研修参加実績

令和3年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加できる体制をとる。研修参加は各職員あたり2回以上の参加を目指す。
自己評価・課題・改善案	研修への参加には、できる限り対応したが、各職員2回以上は達成できなかった。

⑤情報公開・利用者のニーズなどの把握

A. 使命、目標、計画などの方針の公開

令和3年度目標	使命、目標、計画などの方針をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	https://www.momaw.jp/outline/mission/ に公開している。

B. 実績や評価結果の公開

令和3年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	https://www.momaw.jp/outline/assessment/ に公開している。

C. 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の把握

令和3年度目標	入館者情報の把握を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより入館者情報の把握を行った。

D. 利用者の満足度・ニーズなどの把握

令和3年度目標	利用者の満足度・ニーズなどの調査を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより利用者の満足度、ニーズなどの調査を行った。

E. 調査結果等を反映した運営

令和3年度目標	満足度・ニーズなどの調査結果を反映した運営を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートなどにより指摘のあった故障箇所などの修繕に対応している。

8 入場者数と財源の確保

美術館長による所見	<p>コロナ禍で懸念されてはいたが、入場者数は目標を上回ることができた。昨年度は、和歌山県全土で「紀の国わかやま文化祭」が展開され、全国高等学校総合文化祭も開かれるなど、その効果もあったと思われる。</p> <p>予算の確保については、入館料収入や駐車場収入などが目標を達成することはできなかったが、今年度も芸術文化振興基金などが採択されるなど、引き続き外部資金の獲得に向けた努力を行なう。</p>
評価部会による所見	<p>入場者数については目標を上回っており、健闘していると言って良い。展覧会事業予算については、巡回展を開催できる予算規模に及ばない。展覧会図録を作る予算の確保には引き続き取り組んでほしい。建物が築30年に近づき、施設の老朽化に対する対策が必要になってくるものと思われる。展示室照明はLED化されたが、屋外も含めて他の部分の照明は対症的な修理にとどまっており、建築全体の長寿命化に向けた計画を立て、予算化していく必要がある。外部資金の獲得には引き続き努力していただきたいが、条件が厳しく使いづらいものもあると聞いており、また総務課のマンパワーが小さすぎるのではないかと。</p>

①入場者数

A. 入場者数

令和3年度目標	入場者数は40,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	53,059人であった。

②予算の確保

A. 入館料収入 達成率

令和3年度目標	当初予算9,106千円に対する達成率を100%とする。
自己評価・課題・改善案	4,895千円であり、53.7%にとどまった。

B. その他の収入確保

令和3年度目標	駐車場収入4,894千円、行政財産使用料1,641千円、その他2,455千円を目標とする。
自己評価・課題・改善案	駐車場収入2,522千円、行政財産使用料1,517千円、その他1,507千円であった。

C. 外部助成金等の獲得

令和3年度目標	芸術文化振興基金、文化庁令和2年度第3次補正予算事業 Arts for the future! 等に応募する。
自己評価・課題・改善案	芸術文化振興基金より3,120千円、文化庁令和2年度第3次補正予算事業 Arts for the future! に採択され5,804千円を獲得した。今後も外部資金の獲得に向け更なる努力を行う。